



# ねぎし

横浜市立根岸小学校  
学校だより  
4月号 児童数  
令和5年4月7日



ホームページはこちら→

令和5年度スタート

## 学校として大切にすること

校長 杉山 真理子

正門の桜が満開を迎え、いよいよ根岸小学校は創立150周年のスタートです。キラキラワクワクの新生、そして新しい学年に胸膨らませる2年～6年生、654人が「笑顔と拍手につつまれて 夢に挑戦 根岸の子」をめざし、大輪の花を咲かせます。前年度は5年生が150周年に向けたCM作りを配信し、今年度が楽しみになるよう全校を盛り上げてくれました。6日、学校が始まる前日に、新6年生として学校に来て、入学式や新年度の準備をしてくださいました。額に汗を光らせながら生き生きと働くその姿には、卒業生からしっかりとバトンを受け継いだ様子がかがえ、頼もしさを感じました。今年度、6年生の舵取りで順風満帆に進んでいくことが確信となって感じられる1日でした。どんな150周年記念 year になるのか、今から楽しみで仕方ありません。



### 一人の子を複数で

本校は全職員で協力して全児童を支援、指導していきます。今年度もチーム学年経営推進校として、全学年で教科分担や教科交換を行い、学級担任や専科担当者は自分のクラスや担当授業だけではなく、学年全員の子どもの担任という姿勢で子どもと一緒に教育活動を進めます。この取組の最大のメリットは、“一人の子を複数で”支えるということです。担任だけでは気付けなかった一人ひとりの可能性や課題を早期に発見することにつながります。放課後に複数の職員で子ども達の頑張りや変容、支援方法等を話し、情報を共有することで次の授業や支援に生かしていきます。全ての学年で、全ての教職員が“一人の子を複数で”を胸に、子ども

たちの学びを支えていきます。相談等がありましたら、学級担任だけでなく、学年担任、児童支援専任や養護教諭、他学年担任等、声をかけてください。

### 学び合う教職員

AIが進む世の中、基礎基本の定着はもちろんですが、学校だからこそ学ぶことや価値があると考えています。今まで求められてきた、決められたことを決められたようにできる人間を育てる教育から、自分の課題に主体的に向き合い、多様な考えをもって課題解決に向けて取り組む教育へと変換しています。そのために、どのような授業を展開していくことが大切か、子どもが学習の主体者となるよう、私たち教職員自身が学び続け、模索し続けることをめざしていきます。その一つとして、持続可能な学校づくり実践モデル校を小中ブロックで取り組みます。集中できる午前中に5時間授業に取り組み、授業準備や情報共有、保護者との連絡等に放課後を充実させることで、子ども達一人一人に応じた学びを充実させるように取り組んでいきます。

本校は保護者・地域の皆様の素敵な力に支えられ子ども達が生活しています。一人一人の気持ちに寄り添い、良い時には誉めてともに喜び、指導が必要なときにはしっかりと指導していき、職員が全力で子ども達と向き合っていきます。全職員で児童や保護者の思いを大切に、教育委員会や児童相談所・区役所・警察・少年相談保護センター・医療等の関係機関と連携・協力し、安心して豊かに過ごせる学校づくりを目指します。今年度も保護者・地域の皆様のご理解とご協力、ご支援をお願いします。